

1. はじめに

当法人は、1994年7月8日に設立して以来、どんな障害のある方も生き生きと暮らしていける地域社会の実現を目指し、障害のある方自身とその家族、職員、地域の人々が力を合わせて活動することを理念に掲げてきました。2024年度の法人設立30周年にあたって、あらためて私たちがめざすもの、(ミッション)、描く社会の姿(ビジョン)、実現において大切にしている行動指針(フィロソフィー)を策定しました。本年度はその実現において、具体的な取り組みを着実に進めていく大切な一年となります。当法人の仲間と、ここに集う多様な人たちの人権と尊厳を守るために、よりいっそうの協働をすすめ、日々の実践、運動、経営に取り組みます。なお当法人では利用者を「仲間」と呼んでいます。本計画書においても以下同様の表記をします。

2. いぶき福祉会の目指すすがた

(1) ミッション 私たちがとりくむこと

わたしたちは、
「仲間」とともに、
未来を語り、
お互いにケアしあい、
協働する社会をつくれます

(2) ビジョン 私たちがかなえたいこと

ケアを文化に

(3) フィロソフィー ここにつどう人たちの行動指針

権利 障害者権利条約の観点をふまえ行動すること

仲間 仲間の願いを大切にすること

ケア と 協働

おたがいさまの関係を尊重すること

寛容さを忘れないこと

声なき声に耳をかたむけること

ことばと対話を大切にすること

多様な人との関係づくりを楽しむこと

社会の幸せを考え、働きかけつづけること

心躍る瞬間を大切にすること

学びつづけ、学びあうこと

失敗をみんなの糧にすること

信頼し、創造しつづけること

(4) 行動計画

<長期> 私たちがめざすもの

「ケアを文化に」することをめざします。ケアは福祉、介護、医療的な行為として限定されるものではなく、社会の中で他者と幸せになるために日常的に多方向で行われる営みだと考えています。障害のある方だけでなく、誰もが支え合いながら人間らしく安心して暮らせる寛容な社会＝ケアリング・ソサエティの実現に取り組みます。

<中期> 2030年度までにかなえる4つのすがた

仲間の暮らし：地域でやりたい暮らしを選び、いきいきと幸福に暮らしている。

仲間の仕事：自分の役割に誇りを持ち、給料と年金で楽しく暮らしている。

職員のすがた：協働を楽しみ、ケアを通じて、生産性や効率だけではない価値を大切に、誇りを持って働いている
地域のすがた：障害に関係なく、多様な人が地域の中で認め合う存在となり、幸福を感じている。

<初期> 2025年度の活動で意識すること ～「ケアを文化に」を体現する一年～

2025年度は、「ケアを文化に」という目標の実現に向けて、仲間、職員、家族、地域の皆様、多様な立場の人々が気軽に話し合ったり、一緒に活動したりできる場を設けながら、いぶきに関わる人たちのソーシャルキャピタルが豊かになるよう取り組みます。ソーシャルキャピタルとは、地域や社会の中で、信頼し、お互い様と思い合える豊かなつながりを育む大切さのことです。①社会的ネットワーク②相互信頼③互惠性の規範の3つから構成されます。役職員、仲間の家族、いぶき福祉社会会員へのアンケートやエピソードを編集し、物語を集め、多様な営みを可視化することで、その進展を毎年確認していきます。

3. 運営と活動

(1) 組織体制

取り組む組織体制は以下のとおりです。西部・北部2つの事業部において以下の事業を実施し、法人本部で全体の円滑な運営を支えます。

<西部事業部>

いぶき（生活介護 20 名 活動グループ：ソレイユ・あかね）

いぶきゆめひろ共同作業所（生活介護 20 名 就労継続支援 B 型 20 名 活動グループ：セリング・ライラック・リラ・フルーツ・ムスカリ・リサイクル）

サテライトいぶき（生活介護 20 名 活動グループ：ハロー・シェル）

ごんのしま作業所（生活介護 20 名 活動グループ：コスモス・パレット）

しま・ホーム（共同生活援助 6 名）

さぎやま・ホーム（共同生活援助 11 名 居住ユニット：さぎやま・だいふく）

ショートステイセンターいぶき（短期入所 2 名）

ヘルパーステーションねこのて（居宅介護）

いぶき（計画相談支援・障害児相談支援）

<北部事業部>

第二いぶき（生活介護 20 名 活動グループ：いろどり）

第二いぶき2（生活介護 20 名 活動グループ：にじ・アトリエ）

第二いぶき B（生活介護 20 名 活動グループ：こらぼ）

パストラルいぶき（共同生活援助 31 名 居住ユニット：なでしこ・きずな・ひだまり・こまち・つばさ）

パストラルいぶき（短期入所 4 名）

<法人本部・協働支援>

総務、経理、いぶきデザイン室、いぶきファミリー事務局

2024 年 7 月、いぶきゆめひろ共同作業所（日光町の家）の一角に新しいショップ「ほとり」がオープンしました。販売の拠点であった「ねこの約束 JR 岐阜駅店」の第 2 章としての役割を大きく越え、仲間の社会参加の場、地域の人たちが集い、ほっとできる場所、仲間の工賃アップにつながる商品販売の場として機能しています。ケアが文化になっている風景を具体化する場としてさらなる進化につとめます。

(2)活動の柱

それぞれの事業部・事業で仲間の願いを中心にした日中活動、ならびに暮らしの場づくりの実践取り組みます。実践の柱は、以下の3つです。

①いのちと暮らしを守る（グループホーム、ショートステイ、相談支援を中心に）

・地域の中で、仲間とその家族ひとりひとりの安心をつくること

私たちの暮らしに大きな影響を及ぼした新型コロナは消滅したわけではありません。他の感染症とあわせて、引き続き関係者の安全と感染拡大防止において最大限の対応に努めます。仲間の生活の質を維持しつつ、分断をうまないための、説明、対話、相互理解、信頼構築に取り組みます。

強い要望があるグループホームの新設や既存ホームの運営拡充については、依然深刻な職員採用難もあり、見通しがみえません。仲間の家庭環境の急変に備え、あらゆる可能性の研究は継続します。また建物の老朽化、高齢入居者の ADL 低下、職員の介護負担等の対策として、賃貸物件の見直しや介護機器の導入をすすめます。

「親なきあと」の課題については、仲間の意思決定支援、家族の「親心の記録」作成、「親ある間の親なき後準備講座」などの学習会、活動を社会発信するレポート作成を今年度も継続し、社会課題としての発信を続けます。エンディングノートは、オンライン化の実証を継続します。

相談支援部門では、ひとりひとりのニーズに丁寧に向き合い、法人内外の情勢に対処しながら必要な支援で生活をささえることによりいっそう努めます。

災害発生時の備えについても、BCP（災害等の緊急事態発生時の事業継続計画）の定期的な見直しとともに、地域の方々と協働の取り組みも継続します。3 年目をむかえ定着しつつある「ハッピーすまいるフェスティバル」もパストラルいぶき防災拠点で継続します。

②思いを育み、役割を作る（生活介護、就労継続支援を中心に）

・コミュニティ（社会関係の網の目）の中で、ひとりひとりがかけがえない存在となる役割をつくること。

製菓から農業、アート活動まで幅広く取り組む日中活動では、利用者の高齢化、障害の多様化にともない、利用者の仕事（役割）のあり方の見直しをさらに進めます。一人ひとりが関係をはぐくみ、コミュニティを中心とした注文生産に移行することで、生産や収益に追われることなく、関係の中での仲間の仕事づくりを進めます。定期販売「tabita 便」も順調に顧客を増やしており、今年度も引き続き事業展開をすすめます。岐阜市リサイクルセンターのペットボトルの異物除去・選別業務は継続受託します。

なお、日中活動部門の年間開所日数は昨年度より 13 日多い 266 日となります。

③つながり、価値を創る

・社会の中で、当法人の関係の網の目を紡ぐ

・地域の中で、人間回復につながる共同学習と協働の場をつくる

法人の公益的な取り組みを積極的に展開します。地域交流イベントとして「ぎふハッピーウォーク」「にっこりえんがわマルシェ」、「ぎふハッピーハッピープロジェクト」など、地域住民が参加でき、地域団体と協働できるプロジェクトを引き続き実施します。「にっこりえんがわマルシェ」は地域住民、特にこどもたちの参加が増え続けており、「いぶ

きふれあいまつり」の理念を引き継ぐ場として定着しています。コープぎふや地域団体も協働団体として継続的に参加しています。「岐阜の小さな隣人まつり」も継続開催します。

①②を含めたこれらの活動は、ファミリー会報「夢よもっとひろがれ」（現在 1500 部発行）、ホームページ「いぶきの小窓」、ネットショップ「いぶきスタイル」「えんがわ marche」、メディアサイト「えんがわスケッチ」、ポッドキャスト「いぶきのえんがわラジオ」などで広く発信していきます。若い世代の人たちとも連携し、多様なメディアでいぶきの価値の発信に努めます。また年次報告書「夢よもっとひろがれ 2024」も発行します。

3. 法人の基盤強化にむけて

活動をさらに充実させるためには、いぶき福祉会という法人の基盤を強化することが不可欠です。そのために、次の 4 つの点を重視し、着実に取り組みます。

(1) いぶきの権利宣言

法人の行動指針をもとに、仲間、職員をはじめいぶきにかかわる多様な人たちの人権と尊厳についての対話と学習を重ね、障害者権利条約についても継続的に学習しながら「いぶきの権利宣言」の具体化をすすめます。

(2) 協働をつくる

法人内外の多様な人たちと「協働」の関係を築き、ともに新しい価値を創造していきます。いぶきの活動を支えるのは、何よりいぶき福祉会会員「いぶきファミリー」を中心に、法人の理念と活動に共感し協働する市民の存在です。会報誌「夢よもっとひろがれ」の発行や、学習と交流の場づくりを重ね、このつながりをさらに深め広げていくことに努めます。「いぶきケアリング・カフェ」をはじめ、誰もが参加できる対話の場を通じ、他の福祉施設、企業、NPO、行政機関などとの協働を深めます。

(3) ひとづくり

職員一人ひとりが成長し、働きがいを感じられる職場環境を整備するため、次の 4 つの点を重視します。

① 協働の職員体制づくり

法人運営すべてにおいて管理から協働への転換を進めます。その担い手モデルとなる協働責任者の育成をさらにすすめ、「職員」「仲間」「地域や連携パートナー」「その他の多様な人たち」を縦横斜めにつなぎ、多様な「協働」を創り育む役割をさらに率先して担う協働責任者の育成をさらに進めます。

女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の実施にも引き続き取り組み、幹部職・サービス管理責任者の女性比率を 30%以上とするためのプロジェクトをすすめます。

② 職員採用

2024 年度をかけて、法人が必要と考える職員体制を確保する目処がたちつつあります。しかし 24 時間 365 日の支援の必要性の増加、働き方改革の進展による補強と求人難などへの対策は引き続き必要です。福祉職や法人の魅力と価値を伝え、未来をともに創る人材採用にむけ、職員も参加するプロジェクトを進め、つながりを活かした採用活動に取り組みます。

一方、新卒をはじめ求人難は劇的な改善は見込めません。外国人労働者の受け入れの検討もしながら、大学・専門学校・高校と継続的に行き来する活動を進めます。役職員、関係者による全法人採用活動に取り組みます。

③ 人事評価

法人のビジョン実現にむけた行動指針と連動した評価システムに移行します。従来の等級基準の成否をチェックする方式から、各自が協働責任者とともに設定した目標の実現度と行動指針への取組姿勢に対する評価する方式

に改めます。エンパワリングのため定期面談を重視します。チームのメンバーからの多角的な視点を取り入れた評価も継続します。

④共同学習プログラム

ミッション・ビジョン・フィロソフィーの理解を深め、年齢や役職、職域などを越え、多様な知識や経験をもつ他のメンバーとの対話を通じて、新しい行動を導き出していきます。

オンデマンドによる個人学習と小集団での共同学習を組み合わせ、職員同士やいぶきを外から支えつながらの人たちと学び合う講座を年間通じて開催します。また、協働団体の協力で、法人内や福祉分野にとどまることのない幅広い経験の場を作ります。

⑤働きやすい職場づくり

2025年度は、常勤職員68名、嘱託・定時職員110名、総勢178名(2025年4月1日見込み)で始まることとなります。障害者雇用率は2.68%(2025年3月12日現在)で法定雇用率(2.50%)は達成しています。多様な職員が多様な役割を担い、ひとりひとりが大切にされていると感じられ、法人の職員であることに安心と誇りをもてる職場づくりに努めます。職場環境の改善において、職員も主体的に学び参加できるしくみを進めます。

理事会のもとに設置したハラスメント防止委員会、相談窓口の実動にむけた学習を重ね、防止に努めるとともに、発生した際の厳正な対処を徹底します。

また国の福祉介護職員への処遇改善施策にもとづく待遇改善を進めます。

(4)財務の強化

①多様な財源の確保

法人理念の実現におけ、さらなる多様な知見を結集した理事会の運営に努めます。経営の安定のためには多様な財源の確保が不可欠です。既存の福祉事業の再編や新規事業の準備も柔軟に進めます。都度寄付、クラウドファンディング、法人会員の拡大、各種協賛など、協働と資金づくりの活動も引き続き取り組みつつ、2025年度は遺贈寄付の学習を重点的に進めます。

②利用率の安定改善

利用率の低下に対する対策を重点的に取り組みます。あらためてこれまでの実践や法人の活動を広く届けるとともに、仲間や家族との対話を通じて、支援の質を高め、利用の拡大につながるよう努めます。

原価が高騰する食費やガソリン代について利用者の負担が増すため、法人減免の整備もひきつづき検討します。

4.まとめ

2025年度は、いぶき福祉会が掲げる「ケアを文化に」という目標の実現に向けて、具体的な取り組みを着実に進めていく、大切な一年となります。職員の採用と育成は、引き続き重要な課題ですが、従来の方法にとらわれず、新たな視点を取り入れながら、この課題の解決に丁寧に取り組みます。

仲間の高齢化や障害や疾病の重度化、家族や職員を取り巻く環境の変化など、私たちには常に変化への対応が求められています。それらの変化を真摯に受け止め、柔軟に対応していくことに努めます。

日々の丁寧な活動と、多様な人との誠実な関係づくりを積み重ね、私たちは、仲間とともに未来を語り、お互いにケアし合い、協働する社会をつくります。